

生活環境学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（生活環境学）】

学部の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）	学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）
現代社会に生きる人間を理解し、よりよく生きるために、人間とその環境の多様性・複雑性を科学的・総合的に探求し、社会に生きる人間に関わる現実的な諸課題・諸問題に実践的に関わり、解決していく人材を育成する。	衣食住を中心に、環境に対する人のあり方、健康的な暮らしのあり方等について必要な知識・教養・技術を習得し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する能力および態度を身につけた人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	暮らしの基本である衣・食・住を中心に、心身の健康を促進するスポーツ・レクリエーション、自然との共生や経済問題、社会環境など、多様な観点から生活をより良くするための知識と理論を理解している。	1. 生活環境に関わる諸問題を、学際的かつ実践的に学ぶ。 2. 多岐にわたる学習内容を環境や健康に配慮したライフスタイルの創造という具体的な目標に向けて集約する。 3. はじめに、全教員がオムニバスで担当する入門科目によって、学科の理念、目標、学習内容の概要の周知を図る。 4. 基礎科目と専門的科目を体系的に編成するとともに、専門の異なる複数の教員で担当する学際的科目と資格取得を視野に入れた科目を設ける。 5. 1年次では、基礎演習として、大学での基本的な学びの方法、2年次では、より専門的な知の技法・研究手法を学ぶとともに、生活環境学の基礎領域を幅広く学修することによって視野をひろげ、専門教育に備える。 6. さらに、講義だけでなく、実験・実習、フィールドワーク、臨地研修等、体験型学習を併用することによって、知識の深化・体得を図るとともに、実践的技能を身につける。 7. 専門科目及びゼミは、環境や健康に配慮したライフスタイルの創造に向けて、各分野の視点から、より深い専門的知識・技能の習得を図る。 8. 4年次には、習得した知識・技能をもとに学生が主体的に選んだテーマによる卒業研究に取り組み、学びの集大成とする。	生活環境学科では、環境に対する人のあり方、暮らしのあり方を学び持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動する能力および態度を身につけます。生活環境学科では、以下のような学生を求めます。 1. 関心・意欲・態度 生活環境に関わる諸問題に対する積極的な強い関心を持つ人 広い視野と旺盛な知的好奇心を持つ人 2. 知識・教養 生活環境学科の諸分野を学ぶにあたり必要となる基礎的な計算能力、論理的な思考力、科学的な分析力を習得した人 3. 思考力・判断力・表現力 物事を総合的に捉えて理解できる人 暮らしにおける問題を発見・把握する能力を有する人 4. 協調性・主体性 自ら学ぼうとする情熱や習慣をもつ人 新しい課題に率先して取り組もうとする姿勢を有する人 多様な人々とコミュニケーションを図り、協力・調整しようとする人
	(2)	暮らしを豊かにする伝統的な生活文化と技術について学び、それらを科学的に理解することができる。		
DP2 汎用的技能	(1)	実験・実習・ものづくり・フィールドワークなど実践をとおして、生活をより良くする感性と技術を身につけている。		
	(2)	生活をより良くするという観点から、生活を取り巻く種々の問題に常に関心を持ち、その問題について論理的に分析し、具体的な解決策へ結びつけることができる。		
	(3)	適切な情報発信やプレゼンテーションスキルなど、問題解決に向けて主体的に行動する方法を身につけている。		
DP3 態度・志向性	(1)	移り変わる新しい生活の情報を収集し、時代とライフステージに対応した知識、技能を得ようとする態度を身につけている。		
	(2)	様々なイベントやボランティア活動などを経験し、主体的に活動しようとする態度を有している。		
	(3)	地域・企業との産官学連携活動という協働的な学びを経験し、対人コミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。		
	(3)	興味のある専門領域の資格取得に向け、高い意欲をもち継続的に学ぶ態度を有している。		
DP4 統合的な学習経験と創造的思考力	(1)	多岐にわたる学習内容を自分自身のより良い「ライフスタイルの創造」に向けて、環境や健康に配慮し実践することができる。		
	(2)	持続可能な社会の実現に向けて様々な領域で活躍することができる。		